





# 札幌・簾舞中学校

## 実践校 ルポ

# 携帯のオモテウラ考える



舞(m.y)モーニングで活発に意見を発表

上手に活用することでお生活が便利になつたことと、携帯依存症だった男性がやつて手放して新たな生活のスター。トを切つた生徒たちは「舞（まい）モーニング」の時に間にこれらにこれまでにまとめた文章の記事を読み、興味をひく表現に線をひき、自分なりの考え方を取り作業に取り組んでいます。

同校では8割近い生徒が携帯電話を持つていて、多くの親は防犯目的で与えている。そうだが、身に覚えのない「架空請求」や「チエーネメール」の被害にあった生徒もいるという。源校長は「あふれる情報の中には間違ったものや意図的に人をだますための情報もある。その情

報が正しいのかどうか自分で調べてまとめる力や、考える力を持つことが大事です」と今回の活動の狙いを話す。

便利さの陰に失うものも

(北海道新聞NIEスタッフ・江本  
麻貴)

携帯電話のトラブルに子供たちが巻き込まれる例が増えて いる。インターネット、カメラ付き、学割。便利さと手軽さばかりがもてはやされるが、そんな折、NIE 実践校である札幌市簾舞中（源茂子校長・生徒数 304人）で毎朝10分間、タイムリーな話題を中心に新聞記事を活用した「舞（my）モーニング」という活動が進められていた。この中で、「IT（情報技術）」を取り組む様子を伝えたい。

北海道・新聞教育研究会と北海道NIE推進協議会は3月1日、05年度の旗揚げを目指している「北海道NIE研究会」(仮称)の設立準備委員会を開き、5月下旬発足を確認したうえで会員募集を始める。教師自らNIEの実践・研究活動を進める初の全道組織となり、同協議会も連携して活動を後押ししていく。

北海道・新聞教育研究会は学校新聞に関する研究・実践を進める小、中学校教師の組織。札幌市内を中心に約50人が参加しているが、会員数の伸び悩みなどの問題を抱える一方、学校現場でNIEの取り組み機運が高まっていることを受け、教師たち自身がNIEの実践・研究をより組織的、効果的に進めるべきだ、という方向になつた。

新組織は同研究会を発

展的に解消したうえ、旧会員たちが中心になつて、旧準備委員会を設け体制づくりを急いでいる。5月下旬の北海道NIE推進協議会通常総会日に合わせて発足を目指し、新聞やインターネットで道内学研究者らに幅広く参加を呼びかけていく。当面は会員200人が目標。

新組織は代表所在の学校に事務局を置き、事務部門と研究部門で構成。研究部門には小、中、高校の校種別部会、さらには札幌を含む道央と道南、道北、道東の各ブロックに支部を配置する。活動は学校新聞づくりを含め学校教育上のNIEの位置づけ、NIE学習理論の確立などを実践・研究を通じ追求していく。同協議会と連携してNIEの普及、発展にも努める。活動経費は会費や新聞社

# 「NIE研究会」 設立へ

## 研究・実践をより幅広く

などからの助成金でまかない、教育行政機関にもなんらかの支援を働きかけていく予定だ。

3月5日室蘭セミナー

NIE学会

3月旗揚げ

第2回NIEセミナー  
室蘭・胆振（北海道NIE推進協議会庄司）が3

日本N.I.E.学会（設立  
準備委員長・影山清四郎  
横浜国立大教授）が3月  
20日、東京・神田の学士会

海道新聞室蘭支社会議で開かれる。1昨年5月に続く催しで、ベテランの実践活動者、宮重徹

関する理論と実践を学術的に整理・体系化し、発展させる」などを目的に今後の大学や小中高校の教師らが設立準備を進めてきた。現在、会員を募集している。

同学会の活動内容は、やる実践者、研究者、一般市民、メディア関係者ら

さらに結城学・登別市長  
陽中・斎藤宏臣・虻田高  
深澤健・室蘭清水丘高の  
3教諭が実践発表を行ふ。  
このあと室蘭市教委、  
胆振教育局の各指導主事の  
助言、北海道新聞室蘭支社、  
室蘭民報の各編集部員が  
責任者がそれぞれ社として  
ての取り組みについて報告す。

組んだ。毎朝10分間の取り組みはすでに4週間(200分)に及んでいた。1年生の秋元修君は「事中に携帯電話を使うことは、家族と会話しないで食べるのと同じこと。電磁波の影響など、便利さの裏側には何かを失うこともあるのだと思いました」。高瀬菜未さんは「チエーンメールが届く

と5人や10人の友だちに転送していましたが、自分でやめる勇気が必要。ルールを理解して使うと便利でいいものになると思いました。

面があることも新聞記事を通して実感した。文章を書く努力をして携帯で依存しないように心がはたい」とのコメントであった。

に交流の場を提供する「機関紙その他の図書を発行し幅広く活用してもらう」など。準備委員会によると、すでに全国から約100人、道内からも数人が賛同の名乗りをあげているといい、これらのメンバーを軸にさらに会員増強を図る。年会費は正会員（一般5千円、準会員（学生）2千円）。また、新聞社



教説が「週末手紙書き」活動を紹介した。一週間進められたNIE授業の内容は、感想を中心とした教師と子供たちがそれぞれの両親に手紙を書き、返事を求める。父母からは

12月下旬に北見市内で開かれた教員10年経験者研修（網走教育局主催）で、北海道NIE推進協議会のスタッフ2人が「NIE講座」の講師を務めた。日本新聞教育文化財団は教員研修プログラムにNIEを導入するよう文部科学省などに働きかけているが、道内での取り組みは1昨年夏、胆振教育局が10年研修で実施し

網走教育局のNIE講座には同管内の小中高校教師約60人が参加した。選択科目のなかから教師側の要望を聞いたところ最も開設希望が多かったという。

狙い、道内の活動の現状、実践校制度、新聞記事を学習材とした活用実践例など新聞づくりの実践例について説明した。

さらに、教師たちがそれぞれ持参したこの日の朝刊を題材に、どの記事をどう活用して授業展開するかについて1人づつアイデアを発表してもらった。

新聞財團が教育行政機関にこの種の働きかけを強めているのは、教師がNIEに触れる機会をもっと増やそうという試みから。すでに神奈川県、大阪府、兵庫県など全国各地でも同様の活動が見られ、道教委も「研修プログラムの内容は全般に

## 員研修にNIE講座 網走、胆振でプログラム化

「学校と家庭をつなぐ  
NIE」と題する「日韓  
NIE交流セミナー」(京  
都府NIE推進協議会主  
催)が1月24日、京都市  
の京都新聞社で開かれた。  
地元を初め関西地域のN  
IE実践者らと韓国新聞  
活用教育学会所属の教師  
ら16人が、ファミリー・  
フォーカス(家庭での新  
聞活用)をどう進めてい  
くかを中心テーマに活発  
に意見交換した。

韓国では娘子や住民から学ぶファミリー・フォーカスが盛んという。セミナーでは同学会の李貞均（イ・チヨンギン）会長が基調講演で、その効用について「家庭という愛の固まりのなかで家族と新聞を読みながら世の中に関心を持ち、世の中を理解し探求する過程のなかで、子供たちはより広い世界に向かって堂々と進んでいくだろう」と述べた。

愛情と励ましに満ちた手紙が子供たちに返送される。それが何回も繰り返される。同教諭は「学校からだけでなく、家庭からも学校と子供にボーリーを投げ始めている。子供たちはそのボールを楽しく受け取って、以前よりもっと学習に熱心になっている」と報告した。

一方、横須賀市立鴨居小の臼井淑子教諭は、父母も参加するチーム別新規切り抜き競争やチーム

小学校と中学校の公開授業を参観した。高校教員の私が中学校や小学校の先生たちと交流できるのはこのNIE研究大会だけである。国際社会や地方自治で活躍できる「国民全体の人間力の向上」が教育界の使命とされ、「確かな学力」や「豊かな心」の育成が求められる。だが現状は学力低下問題やOECの学習到達度調査の結果が



教育の世界を超えて社会問題になるとともに、長引く不況の克服や就職難題に対する取り巻く状況は厳しさを増す一方である。それらの課題を克服するには校種を超えた情報の若者（職に就かず、学校に入っていないなど）のところへ、ふだんから読ませてほしい」と述べた。

立ちにさまざまな説題を乗り越えるための協働体制が少しずつ確立されようとしている。これもNIEのもう一つの側面であるとともに、そのような場を作ってくれることにいつも感謝している。

（04年12月3日、札幌・平岸中で開かれた北海道NIE研究大会について）

加された感想についても、私は高松澤剛から寄稿してもらいました。

編集後記

昨年夏、道北某市の中  
心的な中学校を訪ねたと  
ころ、その学校は長年続  
けてきた新聞1紙の購読  
を前年から取りやめた  
ということでした。（購  
読中止は）うちの学校だ  
けではないようですよ」  
とは教頭さんの弁。理由  
はもちろん「予算難」。確  
かに新聞購読停止の話は  
道内のあちこちで耳にし  
ます。道南のある小学校  
では、購読料がより安い  
地元紙に切り替えたとい  
う事実もありました。

札幌市内の某中学校に  
聞くと、同校の学校図書  
予算是年間約150万円  
にのぼるが、用途は「図  
書購入」に限定。新聞代

山口県のある市では、1昨年、公立小中学校全校が一斉に新聞購読を打ち切り、予算の権限を握る教育委員会のウラ指導があるのでないかと問題になりました。その近隣の市も右ならえしようとしたが多くの学校が反発し、取りやめたそうです。

「新聞のある環境」が学校から消えうせてしまふなんて……なんだか肌寒い思いを禁じ得ません。(S)

金は管理費・需要費といふ費目からねん出するが、一般経費膨張のあおりで年々圧迫され、とうとう昨年、3紙から2紙に減らさざるを得なかつたといいます。

▲原稿を募集します✓

学校現場からの投稿を歓迎します。NIE関連のほか学校経営や児童生徒の指導、父母、地域の話題などについて400字前後にまとめてください。学校名を含め原則実名としますが、希望により匿名も可。ただし原稿にはお名前と年齢、住所、電話番号を明記してください。採用分には2千円の図書カードを贈ります。宛先は〒065-87711札幌市中央区大通西3-16北海道新聞社内、NIE推進協議会事務局(電話011-210-5802、FAX011-210-5802)。フロッピー処理してお送りください。

▲原稿を募集します▼